尼議政
第66号
8.10.-7
収：受
政策調査担当

第７号様式　（規程別表第1 第2項第2号エ関係）

出　張　報　告　書

令和8年10月7日

尼崎市議会議長　様

団体名：尼崎市議会　無所属議員の会
代表者氏名　池田 りな
出張者氏名　池田 りな

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1　出　張　期　間　　令和8年8月28日～令和8年8月29日

2　結果の概要

用務先	報告事項（この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付）
1. 一般社団法人ソウレッジ 2. 日本思春期学会	・ソウレッジと考える「自分の人生を自分でコントロールできる社会」のこれから海外のユースクリニックの先進事例、若者支援における自治体の役割、包括的性教育 ・人権教育の普及、若者への情報発信について ・思春期の健康支援、包括的性教育、多様性を尊重した支援、医療・教育・行政の連携について

添付書類	備　考
☐出張報告書 ☐ ☐ ☐	

3　届出事項の変更等　　☑ な　し　　☐ あ　り　（内容は裏面に記載）

旅　費　の　精　算

☑ 精算額は、　令和8年8月5日届け出た額（ 43,240 円）と同一額である。

☐ 届出事項の変更等により、別途精算する。（精算額は裏面に記載）

（裏面）

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支　出　額	
精　算　額	
支出 差引　額 戻入	

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
前							
発着地							
後							
前							
経　路							
後							
前							
用務先							
後							
前							
宿泊先							
後							

勉強会報告書

尼崎市議会　無所属議員の会
池田りな

日時：2026年8月28日（金）18時～21時

視察先：東京都渋谷区　主催：一般社団法人ソウレッジ

テーマ：

ソウレッジと考える「自分の人生を自分でコントロールできる社会」のこれから

本報告書では、一般社団法人ソウレッジ主催の勉強会に参加して学んだことのうち、特筆すべきことと、今後尼崎市で活かしたいことを述べます。

勉強会を主催した一般社団法人ソウレッジは、青少年の性にまつわる課題の解決を目指し、性教育教材の開発や、性教育・ユースケアに関わる実践者をつなぐ取組、若者が相談できる場づくりなどを行っている団体です。尼崎市においても、令和3年11月に市立水堂小学校へ同団体が開発した性教育トイレットペーパーが寄贈されています。

今回の勉強会で特筆すべきことを3点述べます。1点目は、国の動きを待つだけでなく、幼児期から地域で性教育に取り組むことです。

前江東区議会議員の三次ゆりか氏からは、幼児期からの性教育の重要性について話がありました。幼児期の性教育は、性交や避妊について教え

ることではなく「自分の体については自分の気持ちを伝えてよい」「相手が嫌と言ったらやめる」「困ったときには信頼できる大人に相談する」といった、自分と相手の身体や気持ちを大切にすることから始まります。

例えば、抱っこや手をつなぐこと、友達との遊びなど、日常生活の中で「自分はどうしたいのか」「相手はどう感じているのか」を伝えたり確認したりする経験は、将来、性的同意や対等な人間関係を理解する基礎にもなります。

また、子どもだけではなく、保護者や保育者など、子どもに関わる大人が共通した考え方を学ぶことも重要です。家庭と園で伝える内容が大きく異なるのではなく、子どもの発達段階に応じて、自分と相手の身体や気持ちを尊重することを繰り返し学べる環境をつくる必要があります。

国においても、文部科学省が幼児期から高校までを対象とする「生命（いのち）の安全教育」を進めています。令和８年３月には教材と指導の手引きが改訂され、令和５年の刑法改正等を踏まえ、「性的同意」についても学べる内容が盛り込まれました。

２点目は、共通教材を活用し、性について科学的・体系的に学ぶことです。勉強会では、学校における性教育の内容や教材についても紹介があ

りました。ソウレッジでは性教育教材の開発を行っており、中学生向けの教材づくりも進めています。

学校で性教育を行う際、担当する教員の知識や経験だけに委ねると、学校や担当する教員によって学ぶ内容に差が生じる可能性があります。そのため、共通して使用できる教材や指導の枠組みを整えることが重要です。

また、学習指導要領には、いわゆる「歯止め規定」がありますが、文部科学省は、学校や児童生徒の状況等に応じ、必要な内容について発達段階を踏まえて指導することは可能としています。

勉強会では、東山渉氏による中学校での実践も紹介されました。中学校3年間を通じて「性を科学する」という視点から、身体、境界線、同意、多様性、妊娠、避妊、性感染症、性暴力、HPVなどについて学ぶ取組です。

生理用品を使った実験や、感染がどのように広がるのかを体験的に理解する学習なども取り入れ、単に知識を覚えるのではなく、生徒自身が考えながら学べるよう工夫されていました。

性教育を保健体育の一部だけで完結させるのではなく、理科、保健体育、道徳、特別活動などをつなぎながら、発達段階に応じて継続的に学ぶことが重要です。

3点目は、多様な声が届く地方議会をつくることです。FIFTYS PROJECTの鈴木なりさ氏からは、地方議会に女性や若い世代を増やし、地域からジェンダー平等を進める取組について話がありました。

同団体では、地方議会への立候補を目指す20代・30代の女性やノンバイナリー等をつなぎ、学びや立候補、議員活動を支える仕組みづくりを行っています。

地方議会には、女性議員がゼロ人または1人しかいない、いわゆる「ゼロワン議会」が現在も多く存在します。また、特に20代、30代の女性議員が少ない現状についても話がありました。議会にどのような年代や性別、経験、背景を持つ人がいるのかによって、議会で取り上げられる課題や政策の幅にも影響します。

生理、妊娠・出産、性暴力、子育て、介護、働き方など、これまで個人や家庭の問題として扱われることの多かった困り事についても、多様な経験を持つ人が意思決定の場に加わることで、社会全体で考えるべき政策課題として可視化される可能性があります。今回の勉強会のテーマである性教育も、こうした課題の一つです。

女性議員を増やすこと自体を目的とするのではなく、これまで政治に届きにくかった声を政策につなげるために、議会の多様性を高めていくという視点が重要であると学びました。

最後に、今回の勉強会を踏まえ、尼崎市で活かしたいことを３点述べます。

１点目は、幼児期から、幼稚園・保育園と家庭が共通の考え方のもとで、子どもの育ちや学びを支える環境をつくることです。幼児期は、自分の身体や気持ちを大切にすること、相手にも同じように大切な身体や気持ちがあることを学び始める時期です。

尼崎市においても、まず各園で現在どのような取組が行われているのかを把握し、実践例を共有することが必要です。その上で、プライベートゾーンだけでなく、自分の気持ちを伝えること、相手が嫌と言ったらやめること、困ったときに信頼できる大人に相談することなどについて、発達段階に応じて学べる内容を市として整理し、共有することを提案していきます。

また、幼稚園・保育園だけに任せるのではなく、保護者も同じ考え方を学べる機会や教材をつくるとともに、保育者への研修も必要です。園と家庭が共通した考え方で子どもに伝え、子どもを支える体制を構築したいです。

２点目は、小学校から中学校まで、性について体系的に学べる仕組みをつくることです。参考となる宮崎市の取組を紹介します。(資料1) 宮崎市では、小学校から中学校までの９年間で学ぶ「包括的性教育の手引」を作成

し、令和８年度はモデル校で実践し、令和９年度から市内全小中学校での実施を目指しています。

尼崎市においても、まず各学年で現在どのような内容を学んでいるのかを整理し、学年や学校による違いや不足している内容を把握することが必要です。

市立水堂小学校では、令和７年５月31日のオープンスクールにおいて、全学年で１時間ずつ包括的性教育が行われました。こうした市内の実践も共有しながら、学校や担当する教員によって学ぶ内容に大きな差が生じない仕組みをつくることが必要です。（資料2）

中学校では、身体の変化や妊娠・出産だけでなく、同意、性感染症、性暴力、HPV、多様性、SNS上の性情報、相談先などについても、発達段階に応じて学べるようにすることが重要です。

教育委員会を中心に、教科を横断した指導内容を整理するとともに、共通して活用できる教材や指導計画を検討し、外部講師や教材等の情報も学校間で共有できる仕組みをつくることを提案していきます。

３点目は、次の世代が議員を目指し、継続して活動できる環境をつくることです。尼崎市議会においても、女性議員の人数だけではなく、20代、30代を含め、多様な年代や経験を持つ人が政治に参画できる環境をつくることが重要です。

若い世代が政治や地方議会を身近に感じ「自分も議員を目指してみたい」と思える機会を増やすとともに、議会や選挙活動におけるハラスメントを防止する仕組みについても考えていく必要があります。

あわせて、妊娠・出産、子育て、介護などと議会活動を両立しながら、誰もが継続して議員活動を行える環境を、私自身もつくっていきたいです。

第45回日本思春期学会総会・学術集会

テーマ：思春期学のみらい～共に創る支え合いの社会をめざして～

日時：令和8年8月29日（土）9時～17時

視察先：幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）

主催の日本思春期学会は、思春期の子ども・若者が抱える身体、こころ、性、家族関係、学校生活、社会とのつながりなどを、医学、看護、教育、心理、福祉等の多分野から考える学会です。

第45回総会・学術集会では、若者支援、性教育、HPVワクチン、ユースクリニック、LGBTQ＋、オーバードーズ、インターネットゲーム障害など、思春期を取り巻く幅広い課題について研究と実践が報告されました。

今回の視察で特筆すべきことを6点述べます。1点目は、HPVワクチンについてです。HPVワクチンは、平成25年に国が積極的な接種勧奨を一時差し控えた影響から、接種に対する不安や誤解が今も残っています。その後、国の専門家会議で安全性と有効性について改めて検討され、令和4年度から積極的勧奨が再開されました。接種について判断するためには、効果と副反応の双方を医学的な根拠に基づいて分かりやすく伝えることが重要です。

勉強会では、HPVワクチンの接種率が全国と比べて高い宮崎市の事例が紹介されました。高校1年生女子の累積初回接種率は、令和7年9月末時点で全国50.5%に対し、宮崎市では65.8%となっています。宮崎市では、県産婦人科医会の協力のもと、市内公立中学校全27校で産婦人科医による出前講座を実施し、子宮頸がんやHPV関連がん、ワクチンの効果と副反応について生徒に直接伝えています。また、接種対象者への個別通知、学校でのチラシ配布、動画配信なども組み合わせています。

単に接種を呼びかけるのではなく、学校でがんやHPVについて正しい知識を得た上で、自分自身で考えられる環境をつくるという視点が重要です。また、HPVは女性だけに関係するものではないため、男子への接種についても考えていく必要があります。

２点目は、ユースクリニックについてです。思春期には、妊娠や性感染症だけでなく、月経、こころの不調、摂食障害、性暴力、デートDV、オーバードーズなど、さまざまな悩みが生じます。しかし、若者にとって医療機関や行政窓口は敷居が高く、どこに相談すればよいか分からないまま、問題が深刻化することがあります。

ユースクリニックは、若者が無料または低額で、性や身体、こころについて専門職に気軽に相談でき、必要に応じて医療や福祉につながる場です。勉強会では、その実践事例として、大阪市港区の「弁天町ユース保健室」が紹介されました。大阪市港区では、港区役所と弁天町ユース保健室実行委員会が事業連携協定を締結し、ユースヘルスケアを公民連携で進めています。港区役所は施設の提供、広報支援、関係機関との連携調整を担い、実行委員会は相談員の配置、相談対応、記録・データ管理を担っています。（資料３）

一方、尼崎市にも、同じく日吉和子先生を中心とした「あまがさきユース保健室」があります。尼崎市では実行委員会が主催し、市が後援する形で実施されています。同じユース保健室の取組でも自治体の関わり方には違いがあり、行政がどのような役割を担うことができるのかを考える上で参考となる事例でした。

３点目は、摂食障害と見た目・自己受容についてです。思春期は、周囲の評価やSNS上の情報に影響され、自分の体型や見た目を否定的に捉えやすい時期です。

勉強会では、中学生を対象に、やせを理想とする価値観を問い直し、自分の身体を受け入れる力を育てるプログラムが紹介されました。発表では、実施後に摂食障害につながる傾向や身体への不満が改善し、自己受容を高める効果が３か月後も続いたとされていました。

摂食障害を本人の意思や食生活だけの問題にせず、見た目を一つの基準で評価する社会の空気も含めて考える必要があります。体重や外見を安易に話題にしないこと、自分の身体を大切にしてよいと伝えること、心配なときに早く相談できる場所を学校や地域につくることが重要です。

４点目は、薬剤師によるユースヘルスケアカフェについてです。会場では、薬学教育に関わる薬剤師や学生による「ユースヘルスケアカフェ」が開かれていました。

骨密度や血圧の測定、食習慣、月経、避妊、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）、性感染症などをテーマに、若者が専門職と気軽に話しながら「測る・知る・話す・選ぶ・振り返る」ことのできる参加型の取組が紹介されました。

エナジードリンクに含まれるカフェインや糖分、市販薬の適正な使用、薬との付き合い方などは、若者の日常生活に近く、薬剤師だからこそ伝えられる内容です。

薬剤師は地域の身近な医療職です。地域の薬局や薬剤師が、若者が健康について学び、相談する際の地域資源として活躍できる可能性があることは、今回の勉強会で得た新たな気づきでした。

5点目は、学生による性教育サークルについてです。千葉大学大学院教育学研究院の性教育サークル「いのちば」では、学生が中心となり、子ども向けの性教育イベントや絵本・教材づくりに取り組んでいました。

絵本の読み聞かせを入口に、身体の仕組み、命の誕生、自分と相手の気持ちを大切にすることなどを、子ども自身が考え、話せるように工夫していました。ロールプレイや赤ちゃん人形なども使い、楽しく参加できる内容にしていました。

性教育を一方的に教えるのではなく、若い世代自身が考え、同世代や子どもたちに近い言葉で伝えることにも意味があります。大学生や若者の自主的な活動を、学校、地域、行政、専門職が支え、実践の場につなげていくことも重要です。

6点目は、思春期の健康を多職種で支えることについてです。今回の勉強会では、医師や助産師だけでなく、薬剤師、教員、大学生など、様々な立場から若者の健康を支える実践が報告されました。

思春期の課題は、性や妊娠だけではなく、こころの不調、摂食障害、性暴力、オーバードーズなど多岐にわたります。思春期の健康を医療だけの問題として捉えるのではなく、教育、福祉、地域など様々な立場から支えていくことの重要性を学びました。

最後に、今回の勉強会を踏まえ、尼崎市で活かしたいことを2点述べます。

1点目は、既存のがん教育の中でHPVについて学ぶ機会を充実させることです。尼崎市でも、中学校に医師を招き、がんの基礎知識や予防、検診、治療等について学ぶがん教育が行われています。こうした既存の取組を活かしながら、子宮頸がんやHPV関連がん、HPVワクチンの効果と副反応についても、医学的な根拠に基づいて学べる機会を充実させたいです。

今回紹介された宮崎市では、産婦人科医が中学校に出向いて生徒に直接伝える取組が行われています。尼崎市でも、現在のがん教育でHPVについてどの程度扱われているのかを確認した上で、医療機関や専門職との

連携、対象者への情報提供などを組み合わせ、本人と保護者が正しい情報を得て判断できる環境づくりにつなげていきたいです。

２点目は、若者が相談から必要な医療や支援まで切れ目なくつながるユースヘルスケアの体制を整えることです。尼崎市には「あまがさきユース保健室」や、子ども・若者のための相談所「ヌック」、10代の居場所づくりや相談、医療機関への受診支援などを行う「一般社団法人enGrab（えんぐらぶ）」など、すでに様々な取組があります。

新たな窓口をつくるだけではなく、こうした既存の取組を市がしっかりと支え、それぞれの強みを活かしながら連携を深めていくことが重要だと考えています。

今回の勉強会では、薬局や薬剤師など身近な専門職との連携についても学びました。学校や医療機関、薬局、大学、市民団体などをつなぎ、地域全体で若者を支える仕組みづくりを進めていきたいです。

（資料1）

宮崎市立小中学校における包括的性教育の手引

小学校低学年

だいじ・だいじ・じぶんのからだ

小学校高学年

それってOK？ みんなの境界線（ライン）

中学校

自分を愛する、最強のスキル。

宮崎市教育委員会

4．学習指導案（小学校4～6年）

国際セクシュアリティ教育ガイダンスのキーコンセプトと本市カリキュラムとの関係

小学校（4～6年）	学年	4年	4年	4年	5年	5年	5年	5年	5年	5～6年	6年	6年	6年
	教科	体育（保健）2時間	道徳	学級活動	理科	家庭	体育（保健）	道徳	学級活動	学級活動	体育（保健）	道徳	学級活動
それってOK？みんなの境界線（ライン）													
キーコンセプト	掲載ページ	P.47～	P.52～	P.56～	P.60～	P.63～	P.66～	P.70～	P.74～	P.78～	P.84～	P.87～	
1 人間関係													性に関する正しい知識
2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ													
3 ジェンダーの理解													
4 暴力と安全確保													
5 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル													
6 人間のからだと発達													
7 セクシュアリティと性的行動													
8 性と生殖に関する健康													

※アイコンは、宮崎市教育委員会が生成AIで作成したオリジナルです。

3．学習指導案（小学校１～３年）

国際セクシュアリティ教育ガイダンスのキーコンセプトと本市カリキュラムとの関係

小学校（1～3年）		学年	1年	1年	1～2年	1～2年	2年	2年	2年	3年	3年	3年	3年
		教科	道徳	学級活動	生活	学級活動	道徳	学級活動	学級活動	体育（保健）	道徳	学級活動	学級活動
だいじ・だいじ・じぶんのからだ													
キーコンセプト		掲載ページ	P.9～	P.13～	P.17～	P.20～	P.24～	P.28～	P.32～	P.36～	P.39～	P.42～	
1	人間関係	①											メディアリテラシーの育成
2	価値観、人権、文化、セクシュアリティ	⑦											
3	ジェンダーの理解	⑤											
4	暴力と安全確保	④											
5	健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル	⑥											
6	人間のからだと発達	③											
7	セクシュアリティと性的行動	⑦											
8	性と生殖に関する健康	⑧											

※アイコンは、宮崎市教育委員会が生成AIで作成したオリジナルです。

3．学習指導案（中学校）

国際セクシュアリティ教育ガイダンスのキーコンセプトと本市カリキュラムとの関係

中学校	学年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	2年	2年	2年	3年	3年	3年	3年	3年	3年
	教科	保健体育（保健）	保健体育（保健）	保健体育（保健）	家庭	家庭	道徳	学級活動	学級活動	技術	道徳	学級活動	社会 2時間	保健体育（保健）	保健体育（保健）	道徳	学級活動	学級活動
自分を愛する、最強のスキル。																		
キーコンセプト	掲載ページ	P.92～	P.96～	P.101～	P.105～	P.109～	P.113～	P.116～		P.124～	P.128～	P.131～	P.136～	P.141～	P.145～	P.149～	P.153～	
1 人間関係									メディアリテラシーの育成									大人になるまでへ
2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ																		
3 ジェンダーの理解																		
4 暴力と安全確保																		
5 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル																		
6 人間のからだと発達																		
7 セクシュアリティと性的行動																		
8 性と生殖に関する健康																		

※アイコンは、宮崎市教育委員会が生成AIで作成したオリジナルです。

(資料2) 尼崎市立 水堂小学校

1年生の活動
包括的性教育（オープンスクールにて） (2025/06/05)
避難訓練 (2025/05/23)
1年生　スタートカリキュラム (2025/04/14)
1年生　むかしあそび (2025/02/14)
生活委員会による児童集会 (2024/12/11)
人権週間 (2024/12/10)
音楽会 (2024/11/25)
令和6年度　体育大会 (2024/10/30)
田能資料館がやってきた (2024/07/08)
1年生を迎える会 (2024/04/22)

各学年のページ
1年生
2年生
3年生
4年生
5年生
6年生

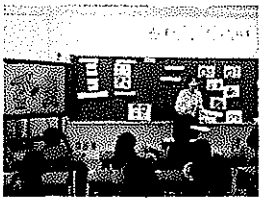
包括的性教育（オープンスクールにて）

(2025年6月 5日 18:58)

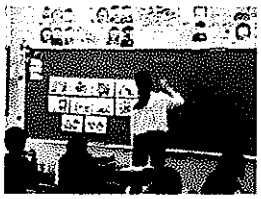
5月31日（土）のオープンスクールにて、包括的性教育を各学年1時間実施しました。

たくさんの保護者の方に参観頂き、「良かった！」とご感想を頂きました。

1年 「からだをたいせつにするほうほうをししろう」



2年 「じぶんの体はじぶんのだけのもの　～たいせつな体のまもり方～」



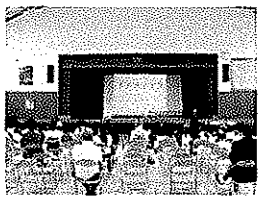
3年 「わたしの体はわたしのもの」



4年 「自分の思いを大切に　みんなの思いも大切に」



5,6年　尼崎医療生協病院　産婦人科医　西尾美穂先生による性教育講演会



参観の後、4校時に引き渡し訓練を実施しました。ご協力ありがとうございました。



カテゴリ: 児童の活動, 1年生, 2年生, 3年生, 4年生, 5年生, 6年生

港区
Minato Ward

(資料3)

弁天町ユース保健室

ページ番号：665956　2026年4月1日

弁天町ユース保健室とは

日本全国で若者の自殺や不登校、若年妊娠、虐待通報などが増加していますが、子どもや若者が安心して悩みを相談できる場所は少なく、相談場所の設置が喫緊の課題となっています。

大阪市港区役所は、「弁天町ユース保健室実行委員会」と連携した取り組みとして、10代から20代を対象に、心身の悩みや性の問題、家庭や学校での人間関係など、幅広い相談に専門スタッフが寄り添って対応する「弁天町ユース保健室」を開設しています。

